

「インサルト」の目

イエローストーン国立公園でアメリカ市民の心意気をみた

モンタナ州はアメリカ北西部にあり、カナダとの国境に接し、日本とほぼ同じ広さを持つ。またの名を「ビッグスカイカントリー（大空の地）」とも呼ばれ、空の色は空色でなく深い群青色で空気が澄み切っている証拠だ。

イエローストーン国立公園の北端がモンタナ州の南端に接し、公園の大部分はワイオミングに属している。公園へは空路でモンタナ州ボーズマンから入るのが見どころポイントに近いので便利である。ボーズマンからルート九〇、八九を走ること二〇〇kmで北側の入口料金所にたどり着く。

入園料金と年間入園者数で規模の大きさがわかる

国立公園への入園料金は次の通りである。

- ・バス 1台 三〇〇ドル
- ・マイカー 1台 三〇ドル
- ・モーターバイク 1台 一五ドル

・サイクリング車及びハイカー 1人 一〇ドル

決して安い料金とも思われないうが年間入園者は三〇〇〇万人に達するという。料金所では入園者に「イエローストーン国立公園について皆様に知っておいて頂きたい」と題したパンフレットが渡される。そこには地熱現象への注意や、熊の生息地での注意事項、施設利用や天候について、サイクリングやキャンピング、ゴミ捨てについての規則等々が変型A3版両面に印刷されており、しかも何ヶ国語も用意されている。勿論日本語版も。

古さと広さと多さを維持するレンジャー活動

イエローストーン国立公園の代表的な特徴をあげると次の通りである。

アイエローストーンの自然の保護や保全を目的に一八七二年に世界で初めて国立公園制度

が制定されている。一三〇年以上前に「環境保全」という認識があったことに驚かされる。ちなみに、日本では一九三四年（昭和九年）に瀬戸内海、雲仙、霧島の三ヶ所が国立公園に指定されている。

イエローストーンの総面積は八九九三km²で四国の半分位の広さがあり、アメリカでも一番大きい。ウチ地表から一〜二マイルの深さにマグマが迫り（普通は六〇〜七〇マイルの深さ）世界最大の火山地帯のプレアターである。エニ四〇〇〇以上の間欠泉がある。

以上の特徴を保護・保全するためのスタッフとして有給で参加しているパークレンジャーとボランティア活動のパークボランティアがいる。

パークレンジャーには、公園で自然の保全をする人が一〇〇人（夏季では二〇〇人に増員）、公園

内のガイドや通訳をする人が七五人、法律や指針が守られているか監視をする人が二〇〇人おり、いずれも公園内での不適切な行動に対しては連邦政府判事の司法権をもっているし、その人を拘置する施設ももっているという。国立公園自身が専用の土地の所有をしているからできることで、日本では国立公園としてエリア指定しているのは大きく異なる。

パークボランティアにはかなりの人が参加しているようで、山火事や落雷などの事故を担当する人、バイソン、オオカミ、エルク、ヘラジカ、バッファローなどの動物の保護を担当する人、環境の静けさの保全をする人等、担当分野ごとの任務が決められているようだ。

パークレンジャーの活躍する観光スポット

①マンモス・ホット・スプリングス
本職は教員で夏季だけガイドを担当し九年目になるパークレンジャー



ホットスプリングステラス
噴き出す熱水に含まれる鉱物質が結晶し
ている上を栈橋から眺める。

のエレンさんに説明を受けた。

マンモス・ホット・スプリングス
は地質学的にも珍しいマンモス
テラスで、六四万年前の噴火以来
熱泉が絶えず噴き出し続けている。

現在は温度が四二℃まで低くなり
間欠泉にならなくなり、温泉のも
つ石灰分の沈殿物が白い結晶とな
り、階段状の巨大なテラスをいく
つも造り上げてきたそうだ。現職
の教員だけあって観光客にも解り
やすい説明であった。見渡す限り
の視界いっぱいには拡がる白く輝く
テラスは見事なものである。日本
の山形県の出羽三山の湯殿山神社
にある一〇m位のテラスと比較し
てしまい驚きの連続であった。

もつとも、イエローストーンは
六四万年前の噴火跡で一〇〇km
のマグマを噴出したそうで、一九

九一年長崎県の雲仙普賢岳の噴出
量が〇・二km³であったから、おおよそ
五〇〇〇〇倍の大きさになる。

② オールドフェイスフル間欠泉

パークレンジャーを一筋に四十
年というベテランのサム・ポルブ
リック氏の説明を受けた。

この間欠泉の特徴は、四分間
で八〇〇〇ガロンと噴出量が多い
こと、頻度が九〇分ごとと高く、
しかも一三〇フィートと高く噴出
すること、源泉が地表より三〜五
マイルと浅いことにあるという。
源泉を中心に一〇〇m位離れて観
客席がつくられており間欠泉の噴
き出すのを待つのである。観客席
の内側をバッファローのんびり
と歩いておりいかに長い間、動物
と人間が共生してきたかの証しを
感ずることができた。五〇〇m先

にも観光客の円陣が見え、
更にその先にも見え、合わせて五
つの間欠泉がここに集中している
ことがわかる。

パークレンジャーの説明によると、公園内に
四〇〇ヶ所のクレーターがあり、
クレーターは鉱石成分を噴出

し続け五〇年〜一〇〇年かけて一
インチ積もり、現在は一五〇ヶ所
がプレイスを形づくっている。そ
のうち九ヶ所が間欠泉となってお
りイエローストーン観光の一番の
見どころであるという。

③ 市民レベルの社会参加

二酸化炭素など削減に関する
「京都議定書」(注・二〇〇五年地
球温暖化防止会議で採択、二酸化
炭素などを五%以上削減しようと
する国際的な約束事)を国レベル
では承認していないが、市民レ
ベルでは個人の判断で様々な社会
参加をする光景を国定公園で見
ることができる。

経営に自然保護への貢献を加える

日本では自然保護といった意識
はまだ低いと言えるのではないだ
ろうか。富士山を世界遺産に申請
したところゴミの山であることが
わかり却下されたこと。又、知床
が世界遺産に登録されたからは観
光客が増え、ゴミが増加したり、
貴重な植物が持ち去られたりして
いるそうである。

白神山地や屋久島などで特定の
エリア内は有料のネイチャーガイ
ドをつけることを義務づけるとこ

ろが出始めている。又、上高地、
乗鞍ではマイカーの乗入れを禁止
しているし、尾瀬では入山者数を
制限する動きがでている。しかし、
全体としてはまだまだ不十分な取
組みの段階だろう。営林署の職員、
自治体の環境保全担当者、宿泊施
設や売店の経営者のボランティア
活動に頼っている状況である。

国内で生産されたり、販売して
いる商品のほとんどは開発され
くされ均質化している。従って顧
客に良い企業イメージを持つても
らうには商品でイメージアップで
きる分野は少ないのが実状である。
そのような企業はパークレン
ジャーのような制度を取り入れて
はどうだろうか。

例えば、企業に近い自然公園で、
学校の夏休み期間六週間について、
従業員には五日間の年次有給休暇
の拠出を願い、企業は一週間分の
宿泊費と交通費を支給することで、
夏休み期間の環境保全ボランティア
隊を結成する。五人一組で六週間
なら三〇人の参加希望者があれば
かなりの活動ができよう。企業の社
会貢献として企業のイメージアッ
プにもなると考えられるからであ
る。(中小企業診断士 大橋唯男)